

【キリンホールディングス株式会社】食品ロス削減・リサイクルに向けた取組

<商慣習の見直し（賞味期限表示や製造時期表示の大括り化の取組）>

○キリンビバレッジでは2013年から、キリンビールでは2020年から、賞味期限や製造時期表示の「年月表示」への移行に取り組んでいます。賞味期限や製造時期表示の緩和は、サプライチェーン上の環境負荷（物流拠点間の転送および転送に由来するCO2排出など）や非効率（物流倉庫の保管スペース、店頭での先入先出作業など）を軽減するとともに、製品の廃棄ロスにも大きく寄与すると期待しています。

<食品ロス削減・食品リサイクルの取組>

○上記の取組み以外では製造工程にて発生する「残渣」の再利用に取り組んでいます。キリンビールではビール製造時に発生する仕込粕を飼料として再利用、メルシャンではワイン製造時に発生するブドウの搾り粕を堆肥として再利用する等、製品製造時の廃棄ロス削減に繋がっています。

<商慣習の見直し（製造時期表示の大括り化の取組）>

○キリンビールでは、国内で製造・販売するビール、発泡酒、新ジャンル、ノンアルコールビールテイスト飲料の缶・びん商品について、製造時期表示を従来の「年月旬」表示から、2020年10月1日製造分より「年月」表示に切り替えています。

<食品ロス削減・食品リサイクルの取組>

○ビール仕込粕の飼料化：

ビールや発泡酒などの製造工程で発生する仕込粕には、栄養成分が残っているため、牛の飼料やキノコ培地などに有効利用されています。

○ブドウの搾り粕再利用：

ワインのためのブドウの搾り粕を、自社ブドウ畑の堆肥置場で一年間切り返しという作業を行うことで、堆肥にして有機肥料として利用しています。

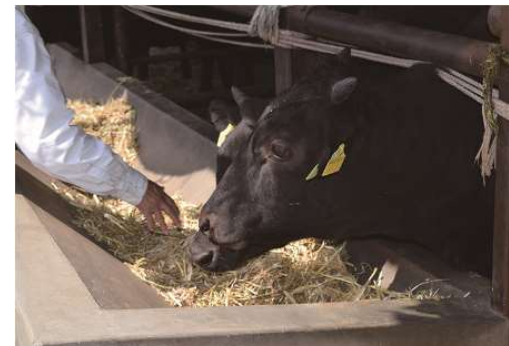
[関連ウェブページ]

KIRIN 環境報告書

https://www.kirinholdings.com/jp/investors/library/env_report/

[お問い合わせ先]

CSV戦略部（03-6837-7000(代表)）



仕込粕を飼料として有効利用



ブドウの搾り粕を堆肥として再利用